

やまがた若者チャレンジ応援事業 企画提案様式記入例

20ページ 記入例 1 単域型の例

23ページ 記入例 2 2年目 広域型の例

(注意) ・記入例記載の団体・組織名、個人名等は全て架空のものです。

(様式第1号)

平成31年度やまがた若者チャレンジ応援事業企画提案書

募集要項2に規定する応募団体の資格を有する団体であることを宣誓し、添付書類とともに企画提案書を提出します。

※□は該当するものを塗りつぶしてしてください

区分	<input type="checkbox"/> 広域型	<input type="checkbox"/> ジャンピングコース(補助対象事業費 上限100万円) <input type="checkbox"/> チャレンジングコース(補助対象事業費 上限60万円)
	<input checked="" type="checkbox"/> 単域型	(補助対象事業費 上限60万円)
事業名	〇〇温泉ガールズ&スパ プロジェクト	
事業費	総事業費	700,000 円 うち補助対象事業費 600,000円
	補助希望額	540,000 円

申請者【団体概要】	団体名	〇〇〇温泉 温泉道部 団体の法人格 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 法人設立(法人化)からの年数(年)			
	所在地	郵便番号	〇〇〇-〇〇〇〇	(公表時の団体所在地市町村名: 〇〇市)	
		住所	〇〇市〇〇町〇-〇-〇		
	代表者	役職名	代表		
		ふりがな 氏名	やまがた はるか 山形 春夏		
		電話番号	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	メールアドレス	〇〇〇〇@〇〇〇〇〇.〇〇.〇〇
	活動開始年月	平成 30年 3月から	おこしあいネット登録済 <input checked="" type="checkbox"/> 登録見込 <input type="checkbox"/>		
	主な活動地域	〇〇市	※登録見込の場合は、やまがたおこしあいネット参加申込後に事務局から送信される確認の電子メールを印刷し添付願います。		
活動目的	女性の視点から地元温泉を楽しむ「温泉道」を広め、地域を活性化すること。				
活動実績	〇〇市内〇〇地区での歩道への花の植栽活動(平成26年～)※地元高校生ボランティアと共催 〇〇〇〇(イベント)に参加し、〇〇鍋のPR活動(平成29年～)※温泉組合青年部女子カアップイベント「〇〇〇〇」の開催(平成30年)※〇〇大学のサークルイベント				
連絡先	担当者	役職名	副代表		
		ふりがな 氏名	わかもの はなこ 若者 花子		
	通知等送付先	郵便番号	〇〇〇-〇〇〇〇		
		住所	〇〇市〇〇町〇-〇-〇		
		電話番号	〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	※日中に連絡可能な電話番号を記入してください。	
メールアドレス	※確実に連絡可能なメールアドレスを記入してください。携帯電話は不可。 〇〇〇@〇〇〇.〇〇〇.〇〇.〇〇				

添付書類	1 ■ 事業計画書(様式第2号)	3 ■ 最新の団体構成員名簿(年齢が記載されているもの)
	2 ■ 収支予算書(様式第3号)	4 ■ 団体の定款・規約・会則等
	5 ■ 団体・活動を紹介した新聞記事など資料(必要に応じてA4判8枚まで)	6 ■ おこしあいネット書類
	※提出の際にチェックしてください。書類は全てA4判の片面印刷。	7 ■ 市町村連携確認書類

平成31年度やまがた若者チャレンジ応援事業事業計画書

団体名 ○○○温泉 温泉道部

1. 事業名	○○温泉ガールズ&スパ プロジェクト		
2. 実施期間	平成 31年 8月 1日 から 平成32年3月31日 まで		
3. 事業申請	申請 1年目 <input checked="" type="checkbox"/>	※2年目以降は(様式第4号)も提出要 2年目 <input type="checkbox"/>	3年目 <input type="checkbox"/>
4. 事業目的	<p>・事業により解決できる地域の課題、活性化の内容 <審査ポイント1-①></p> <p>温泉という地域資源を、観光資源としてだけではなく山形ならではのライフスタイルとして広くPRすることで、観光誘客の推進だけでなく、温泉そのものを好きになってもらい、○○温泉を中心とした地域へのUIJターンを推進する。さらに「温泉道」という新たな温泉の楽しみ方について県内外にむけ情報発信を行う。</p>		
5. 事業内容	<p>・事業の具体的内容(どのような事業を、誰に対象に、どう行うか) <審査ポイント1-①・2-②></p> <p>①先進地視察の実施 ○○県××温泉まちづくりグループを訪問し、先進事例の取組み状況について研修を行う。</p> <p>②女子力向上イベント開催時における地元フリーペーパー誌 998、(株)○○トラベルの協働フリーペーパー誌及びサイトでの告知、(株)○○トラベルと協働した女性向けパッケージ商品の開発</p> <p>③県内外の女性を対象とした誘客及び温泉の楽しみ方の普及・定期的な交流(女子温泉道交流会)女性向けに温泉の楽しみ方として「温泉道」を広め、ライフスタイルに潤いを与えるとともに、新規の観光需要を創出し、地元温泉活性化を目指す。</p>		
	<p>・事業の実施スケジュール <審査ポイント2-②></p> <p>○月 温泉組合・○○トラベル・フリーペーパー編集部との打ち合わせ ○月 先進地視察 ○月 女性向け温泉誘客キャンペーン開催(9月・1月) ○月～○月 女性を対象とした女子力向上イベント及び交流会(温泉道交流会)開催</p>		
	<p>・事業のポイント(独創性・先進性など) <審査ポイント2-①></p> <p>温泉を旅し・たしなむ「温泉道」を、県内外の10代～30代を中心とした女性に広げ、○○温泉を中心とした県内での新たなライフスタイルのイメージを持ってもらい、観光誘客だけでなくUIJターン・地域定着までフィードバックする手法は県内初めての取組みである。</p>		
	<p>・事業の発信方法 <審査ポイント2-③></p> <p>地元のコミュニティテレビ局やFMラジオ局と連携し、随時情報を発信する。また、協働相手であるフリーペーパー編集部の協力を得て、雑誌媒体・ネット上でも周知を行い事業実施を行う。</p>		
6. 事業効果及び目標	<p>・事業の実施体制(責任者、担当者、協力者等) <審査ポイント2-②></p> <p>責任者 代表 山形 春夏 担当者 副代表 若者 花子 協力者 ○○温泉組合 事務局長 温井 泉、フリーペーパー998編集部、(株)○○トラベル○○支店</p>		
	<p>・事業により得られる効果、目標と将来展望(数値等を用いて具体的に) <審査ポイント3-①></p> <p>キャンペーン時の女性宿泊客60組 イベント時30名程度の女性(18歳以上)参加を目指す。 効果 観光客が減少しつつある○○温泉に新たな誘客を呼び、地域全体の活性化につながる。 また、「温泉道」の普及による温泉地の活性化、若者の移住・定住に寄与する。</p> <p>目標 年間参加人数 H○年○○人⇒ H○年○○人 県「温泉道」大会の開催</p> <p>将来展望 PRイベントを継続し、地域を代表する観光イベントとして展開していく。 先進地である××温泉まちづくりグループと交流を継続し、相互の訪問を行うなど、地域間の交流に発展させていく。</p>		

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

(様式第3号)

平成31年度やまがた若者チャレンジ応援事業収支予算書

団体名 ○○○温泉 温泉道部

1 収入の部

(単位:円)

区 分	予算額	内 訳
県補助金	540,000	
当該事業による収入(a)	40,000	イベント参加料 @2,000円×20人×1回
その他収入	30,000	協賛金
自主財源	90,000	
計	700,000	

2 支出の部

(単位:円)

区 分	予算額	内 訳
旅費	80,000	先進地視察(××温泉まちづくりグループ) @40,000円×2名=80,000円
印刷製本費	150,000	キャンペーンチラシ印刷 @50,000円×1回=50,000円 旅行商品チラシ印刷 @50,000円×1回=50,000円 観光誘客イベントチラシ印刷 @50,000円
消耗品・材料購入費	80,000	イベント時 ○○鍋材料費 75,000円 箸・カップ等消耗品 5,000円
使用料	70,000	イベント会場使用料(協力旅館・ホテルへの支払い) @50,000円×1回 =50,000円 女子力向上イベント会場使用料 @10,000円×2回
委託料	300,000	フリーペーパー誌掲載料 1件@100,000円×3回=300,000円
人件費	20,000	イベントアルバイト賃金 @5,000円×4名×1回=20,000円
対象経費 小計(A)	700,000	
対象外経費 小計(B)	0	
合計(A+B)	700,000	

○補助対象事業費

(A)-(a)= 660,000 円(C)

区分毎の上限額 600,000 円(D)

○県補助金 (CとDで小さい方)

600,000 × 0.9 = 540,000 円(千円未満切捨て)

(注)区分は、募集要項5(1)①の「補助対象経費」に基づき記入してください。

※ 施設整備費、備品購入費を計上する場合は、価格の参考となる資料(見積書・カタログ等)を添付してください。

(様式第1号)

平成31年度やまがた若者チャレンジ応援事業企画提案書

募集要項2に規定する応募団体の資格を有する団体であることを宣誓し、添付書類とともに企画提案書を提出します。

※□は該当するものを塗りつぶしてしてください

区分	<input checked="" type="checkbox"/> 広域型	<input checked="" type="checkbox"/> ジャンピングコース(補助対象事業費 上限100万円) <input type="checkbox"/> チャレンジングコース(補助対象事業費 上限60万円)
	<input type="checkbox"/> 単域型	(補助対象事業費 上限60万円)
事業名	若者ボランティアで被災地とふるさとをつなぐにぎわいづくり	
事業費	総事業費	716,620 円 うち補助対象事業費 656,620円
	補助希望額	590,000 円

申請者 【団体概要】	団体名	特定非営利活動法人〇〇〇ボランティア 団体の法人格 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 法人設立(法人化)からの年数(5 年)			
	所在地	郵便番号	〇〇〇-〇〇〇〇	(公表時の団体所在地市町村名: 〇〇市)	
		住所	〇〇市〇〇町〇-〇-〇		
	代表者	役職名	理事長		
		ふりがな 氏名	わかもの たろう 若者 太郎		
		電話番号	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	メールアドレス	〇〇〇@〇〇〇〇. 〇〇. 〇〇
	活動開始年月	平成 25年 3月から	おこしあいネット登録済 <input checked="" type="checkbox"/> 登録見込 <input type="checkbox"/>		
	主な活動地域	〇〇市、△△町	※登録見込の場合は、やまがたおこしあいネット参加申込後に事務局から送信される確認の電子メールを印刷し添付願います。		
活動目的	若者のアイデアを活かしたボランティア活動の実践により地域を活性化すること。				
活動実績	〇〇市内〇〇地区における高齢者世帯除雪ボランティア活動(平成〇年～) 宮城県石巻市での震災復興ボランティア活動(平成〇年) 〇〇高校生徒を対象としたボランティア講座(平成〇年～)				

連絡先	担当者	役職名	理事	
		ふりがな 氏名	わかもの はなこ 若者 花子	
	通知等送付先	郵便番号	〇〇〇-〇〇〇〇	
		住所	〇〇市〇〇町〇-〇-〇	
		電話番号	〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	※日中に連絡可能な電話番号を記入してください。
メールアドレス	※確実に連絡可能なメールアドレスを記入してください。携帯電話は不可。 〇〇〇@〇〇〇. 〇〇〇. JP			

添付書類	1 ■ 事業計画書(様式第2号)	3 ■ 最新の団体構成員名簿(年齢が記載されているもの)
	2 ■ 収支予算書(様式第3号)	4 ■ 団体の定款・規約・会則等
	5 ■ 団体・活動を紹介した新聞記事など資料(必要に応じてA4判8枚まで)	6 ■ おこしあいネット書類
	※提出の際にチェックしてください。書類は全てA4判の片面印刷。	
		7 ■ 市町村連携確認書類

平成31年度やまがた若者チャレンジ応援事業事業計画書

団体名 特定非営利活動法人〇〇〇ボランティア

1. 事業名	若者ボランティアで被災地とふるさとをつなぐにぎわいづくり		
2. 実施期間	平成 31年 8月 1日 から 平成32年 3月31日 まで		
3. 事業申請	申請 1年目 <input type="checkbox"/>	※2年目以降は(様式第4号)も提出要 2年目 <input checked="" type="checkbox"/>	3年目 <input type="checkbox"/>
4. 事業目的	<p>・事業により解決できる地域の課題、活性化の内容 <審査ポイント1-①> ボランティアに興味はあるが、なかなか参加する「きっかけ」がなく、はじめの一步を踏み出せない若者が多数いる。そうした若者を集め、被災地での復興に向けたボランティア活動や地域でのボランティアの実践活動の場を提供し、自らボランティアに積極的に参加する若者を増やすことにより、被災地の復興とともに地元地域の賑わい創出を図り、人口の減少等により発生している地域の様々な課題を若者の力で解決する。</p>		
5. 事業内容	<p>・事業の具体的内容(どのような事業を、誰に対象に、どう行うか) <審査ポイント1-①・2-②> ①被災地での復興ボランティアツアー 復興支援のボランティア活動について、現地に行く前のニーズ把握、プラン立てを含めて実践する。 ②地域でのボランティア実践 〇〇市××地区を対象に、課題抽出及び課題解決活動等を参加者の若者自ら企画し、実践する。 ③ワークショップの開催 ワークショップを開催し、ボランティアに積極的に参加する若者を増やす活動につなげる。 ④振り返りワークショップ 活動を通して感じたことや考えたことなどを振り返り、今後の活動につなげる。</p>		
	<p>・事業の実施スケジュール <審査ポイント2-②> ○月 参加者募集 ○月 ボランティアワークショップの開催 ○月 被災地でのボランティア体験 ○月 ボランティアワークショップの開催 ○月 振り返りワークショップ開催</p>		
	<p>・事業のポイント(独創性・先進性など) <審査ポイント2-①> 若者視点で、若者のボランティア活動経験の浅い者を主な対象としたプロジェクトの企画・実行はこれまでにない試みであるとともに、地域課題を自ら発見し、解決に向け具体的に活動できる若者を育成する点は画期的である。</p>		
	<p>・事業の発信方法 <審査ポイント2-③> 事業に参加して「感じた」ことや「気づいた」ことなどを随時FB等を通して発信し、参加者以外の若者にも共感の輪を広げる。また、地域の方へのアンケート結果などをマスコミに発表、注目を集めるよう工夫し、活動を広く知ってもらおう。</p>		
	<p>・事業の実施体制(責任者、担当者、協力者等) <審査ポイント2-②> 責任者 代表理事 若者 太郎 担当者 理事 若者 花子 協力者 〇〇市社会協議会 ボランティア担当 〇〇 〇〇</p>		
6. 事業効果及び目標	<p>・事業により得られる効果、目標と将来展望 (数値等を用いて具体的に) <審査ポイント3-①> 効果 地域の課題を自ら発見し、具体的に活動する若者が育成できる。 参加者自身、様々な活動から学び、成長し、将来の地域の担い手となる。 目標 参加者数 20名 将来展望 事業終了後も、適宜アドバイスを行いながら、それぞれの地域でボランティア活動行っていくようなフォローアップを行う。また、FBグループページなど参加者間のコミュニケーションツールを設け、事業終了後も情報提供や継続した交流を促す。</p>		

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

(様式第3号)

平成31年度やまがた若者チャレンジ応援事業収支予算書

団体名 特定非営利活動法人〇〇〇ボランティア

1 収入の部

(単位:円)

区 分	予算額	内 訳
県補助金	590,000	
当該事業による収入(a)	40,000	被災地ボランティア参加費(保険料等+昼食費) @2,000円×20名
その他収入	20,000	協賛金
自主財源	66,620	
計	716,620	

2 支出の部

(単位:円)

区 分	予算額	内 訳
謝金	100,000	ボランティアワークショップ講師謝礼 20,000円 (講師予定 〇〇〇〇) 被災地ボランティア現地コーディネーター謝礼 20,000円×3名=60,000円 (コーディネーター予定 〇〇〇〇) 復興ボランティア支援先町内会謝礼 20,000円 (復興を語る会 住民2名)
旅費	170,000	ボランティアワークショップ講師旅費 20,000円 ボランティア宿泊費 5,000円×20名 スタッフ宿泊費 5名×5,000円×2回
印刷製本費	60,000	参加者募集チラシ印刷 50,000円 各プログラムしおり印刷 10,000円
消耗品・材料購入費	70,000	ボランティアワークショップ等資料代 20,000円 ボランティア活動用品代 50,000円
使用料	225,000	事務局打合せ会場代(5回)5,000円 ボランティアワークショップ会場借上料 20,000円 移動用大型バス借上げ代 180,000円 地域ボランティア打合せ会場借上料 10,000円 振返りワークショップ会場借上料 10,000円
人件費	50,000	活動状況報告用HP、FBページ開設アルバイト代 5,000円×10日間=50,000円
手数料	1,620	振込み手数料 540円×3回
保険料	20,000	参加者加入保険 500円×20人×2回=20,000円
対象経費 小計(A)	696,620	
食糧費	20,000	参加者昼食代 1,000円×20人=20,000円
対象外経費 小計(B)	20,000	
合計(A+B)	716,620	

○補助対象事業費 (A)-(a)= 656,620 円(C)

区分毎の上限額 1,000,000 円(D)

○県補助金 (CとDで小さい方)

656,620 × 0.9 = 590,000 円(千円未満切捨て)

(様式第4号)

平成31年度やまがた若者チャレンジ応援事業(2年目以降)
過年度事業実施結果検討状況及び提案事業への反映表

団体名 特定非営利活動法人〇〇〇ボランティア

1. 事業名	若者ボランティアで被災地とふるさとをつなぐにぎわいづくり		
2. 初回採択年度	28年度以前 <input type="checkbox"/>	29年度 <input type="checkbox"/>	30年度 <input checked="" type="checkbox"/>
3. 前回事業実施期間	平成 30年 6月 1日 から 平成 31年 2月 28日 まで (実績報告書参照)		
4. 前回事業における自己評価	・成果があった点、改善が必要な点などを箇条書きで記載願います <審査ポイント3-②> ボランティアに興味はあるが、なかなか参加する「きっかけ」がなく、はじめの一步を踏み出せない若者が多数いる。そうした若者を集め、被災地でのボランティア活動や地域でのボランティアの実践活動を実施し、ボランティアに積極的に参加する若者を増やすことにより、人口の減少等により発生している地域の様々な課題を若者の力で解決する。		
・事業実施状況の自己採点 (10点満点で記載願います)	6	・目的達成状況の自己採点 (10点満点で記載願います)	7
完全にできた場合は10点、全くできなかった場合は0点を目安に、実施・達成の度合いにより判断して記入してください。 ※予定通りでき、かつ、目標以上の成果があった場合は9~10点、目標通りの事業実施できた場合は7~8点、事業を実施でき、概ね目標を達成した場合は5~6点、半分程度しか事業実施(達成)できなかった場合は3~4点、それ以下の場合は2点以下			
5. 前回提案事業との違い、成果の反映点	・前年度事業との変更点、改善点など箇条書きで記載願います <審査ポイント3-②> 前年度は、初心者向けなのか経験者向けなのか、参加対象を限定しようとして、かえって混乱した面があった。 このため、今年度は参加経験のある方に絞り、復興段階の支援について現地でのニーズに応じた活動を行っていただくことで、地域での復興ボランティア展開の際に参考になるような内容としたい。 事業の継続性として、被災地で開催される復興まつり(〇〇市〇〇地区)への参加を通じて、ボランティア参加経験の有無を問わず、復興ボランティアの一面を体験してもらうことで、事業目的を達成するための仕掛けを設けたい。		
6. 今年度提案事業における目標	・事業の具体的目標(何を、いつまで、どのように行うか) <審査ポイント3-②> (様式第2号)の6. 事業効果及び目標を参考に記載願います。 ・ワークショップ開催 7月~ ボランティア受け入れ先地区との打ち合わせ 8月上旬 参加者募集 8月下旬 実施 参加者 20名 ・交流促進型(ボランティア祭り)への参加者 10名(報告会への参加者も同数程度) 8月下旬 打ち合わせ 9月中旬 参加者募集 10月上旬 ボランティア祭り参加 ・参加者による学習会 11月、2月開催 復興ボランティアに興味のある層へソーシャルメディアを用いた宣伝を実施、図書館併設会議室等、若者層が集まりやすい場所で開催する。		

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

前年度実績報告書に基づく県の評価	※記入しないでください		
・事業実施状況(県で記入) ※記入しないでください		・目的達成状況(県で記入) ※記入しないでください	